

いつもありがとうございます。きしゅう会計



の名倉です。厚いです。ちがう、暑さでやられて漢字違い。暑い。暑い。今の事務所は平成13年建設。御年18歳。エアコンももう働き盛りを過ぎた斜陽の

様であんまり効いていなかったことを、先日事務所のホワイトボードを使って、スタッフ一同にレクチャーをした際の「異常な暑さ」で気づきました。

今の僕の机は別室なので涼しかったんですね。

温度計をおいてみると、室内30度越え！これはあかんとすぐにクライアントの電器屋さんに発注。



「春先に言ってくれたらすぐに工事できたんですけどね」と言われて、



僕は2つに分類すると、「夏のキリギリスだわ」と思った次第でございます。まあ、真面目な働きアリではないですね。スタッフの

皆さんごめんなさい。お盆休み中にエアコン新しくなるので許してね。

さて、最近事務所の中のスタッフの異動が激しくて、慌ただしくて、もうほとんどの方にはお伝えしたと思いますが、ここ10年以上頑張ってくれたイケメン、爽やか副所長角田が退職となりました。事務所の中のことも、事務所の外のことも八面六臂の活躍をしてくれていた彼の退団はエンゼルスでいえば大谷翔平が抜けるようなもの。と言えちよ

っと大袈裟かも知れませんが、過言でもないかも知れません。それくらい活躍してくれました。しっかりゆっくり身体を治して、新しい楽しい人生を歩んでくれたらと思っています。長い間ありがとう！お疲れ様でした！



「もうちょっと自分の命をちゃんと使いなさいということなのかなあ」と思ったりもしています。仕事もプライベートもね。最近おそろそかになっていたジョギング。

7月は予算200キロに対して実績180キロ。数字だけみればまあまあですが、内容がねえ(無え)。まあ、そこそこは次の機会に。また角田だけでなく、他のスタッフも何人か入れ替わっていますので、次号では久しぶりにスタッフ紹介します！乞うご期待！



さて、話は変わって、土曜日。NHKの朝ドラ(今はなつぞら)を見ていて、そのままつい見ちゃう。「チコちゃんに叱られる」から話題をひとつ取り上げてみます。もうだいぶ前の放送分ですが、「猫がニャーと鳴くのはなぜ？」の質問の答えが面白い。番組の回答は「そこに人がいるから」でした。



本来、大人の猫が猫に対して「ニャー」と鳴くことはなく、子猫だけが親猫にあまえるために



「ニャー」と鳴くのだそうです。しかし飼われている猫は、人と共存するために大人になっても人に向かって「構ってほしい」「餌がほしい」場合に、大人子供問わず「ニャー」と鳴く。人に餌をもらうために、甘えるために、かわいらしい鳴き声を上げるんだそうです。大人の猫だけが



何匹もいる部屋の様子を隠しカメラで撮影していましたが、ほんとにサイレントでした。

ちなみに、子供の頃からの性質を大人になっても

も持ち続ける動物(つまり大人になっても幼児性が残るってこと)を「ネオテニー(幼形成熟)」と呼ぶそうです。

ネオテニーは頭蓋骨をはじめとした骨の形がほとんど変わらないという特徴を持ち(犬は子供と大人で頭蓋骨が大きく変形、猫はほとんど変わらない)、人間も頭蓋骨が子供も大人も大きく変わらないので、ネオテニーだそうです。



番組の中でADさんの自宅に隠しカメラを置いて撮影した、「おなかすいたにゃーん」と奥さんに甘えている映像を見ていると(ちょっとかわいそうだよな 笑)、確かに人間も、特に男性はネオテニーだった次第です(笑)。この番組を見たあと、そっかあの人も

ネオテニーの代表格だと思ったのが、テスラ社長のイーロン・マスク氏。

少し前に始めたNISAでの米国株投資(NISAは米国株も対象なんですよ)。N証券の友人に勧められて購入した米国株。同じ証券会社の別の担当に勧められたのが「テスラ」でした。(友人に確認したところ、そんなこと言ってるのは



その営業マンだけで、ちょっと彼は変わってるんです。会社、支店の推奨銘柄でもなく、他の誰も勧めていないとのことでした 笑)テスラ、イーロンマスク氏については多少知っていましたが、これで興味を持ち調べるととても面白いんです。とても優秀なのに、完全にネオテニー(笑)

『イーロン・マスク氏の経歴&逸話』

イギリス人とアメリカ人をルーツに持つ南アフリカ人の技術者の父親とカナダ人の母親との間に南アフリカで生まれる。



10歳のときにコンピュータを買い、プログラミングを独学した。12歳のときに最初の商業ソフトウェアであるBlasterを販売する。

1995年にハーバード大学大学院に入学する。物理学と経営を学ぼうと思っていたが、ウィンドウズ95が発売されるのを見て2日でやめる。



「こんなことをしている場合じゃない」と起業。大学院辞めたあと弟と2人で立ち上げた会社がコンパックに

3億700万ドルで買収され、大金を手にするもリタイアすることなく、これから世の中に貢献できる事業だからと、「IT」と「クリーンエネルギー」と「宇宙」の事業をやるうと決めていたそうです。



x.com を立ち上げて、ネット銀行事業を始めて paypal と熾烈を極めたあと合併するも海外旅行に出かけた後、クーデターで解任される(ジョブズもそうだけど解任は大物の証明?)。宇宙ロケット事業でもSpaceXを企業するが、予想以上に資金がかかり経営難となるも、NASAから宇宙ステーションへの供給事業を受注して、息を吹き返す。

従来、宇宙開発は国家レベルの事業であったが、この実績により民間でも参入できることを実証。今では国家で開発していた時代の1/10のコストでロケットを打ちあげられるようになったらしい。現在の目標は月。でもそれは通過点。人類を火星に移住させることを本気で考えている。軌道に乗った宇宙事業で得た資金を、苦しい電気自動車事業(テスラ)に回して繋ぐ。



ここまでの経歴では常識的な物差しでは測れないキラキラのイメージなんですが、ここからはユニークな彼のネオテニーの面を紹介します。自動運転の電気自動車の開発をしているテスラ。電気自動車製造のひとつのハードルは電池。勝手の良い大きな電池が必要だがその製造が難しいそうです。「大きな電池が作れないのであれば小さな電池

を組み合わせればいい」と(ちなみに電池はパナソニック製)、テスラの安価版モデル3を出すために大金をかけてギガファクトリーを建設。工場の完全ロボット化を目指すも、このロボット全く動かなかったそうです。しょう



がないので全スタッフに手で詰めさせる。当時めっちゃ忙しかったらしいです。彼は若者には「週100時間働け！」と日本の働き方改革とは真逆のことを忌憚なく発する経営者のようです。(もちろん本人もそのくらい働くそうです)

また、彼はエープリルフールにとんでもないジョークをツイートして話題に。そのツイートとは「テスラが倒産」とウソの見出しで「最後の手段としてイースターエッグを販売するなど、懸命に資金調達を試みたものの、残念ながらテスラは完全に経営破綻した。信じられない倒産だ」とつぶやいたとのこと。イースターエッグとは、キリスト教の復活祭に出されるペイントや装飾が施された

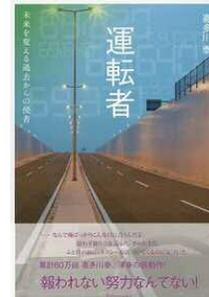
ゆでタマゴ。同社が資金繰りのためタマゴを売ったなど、ユーモアを交えたつもりだったが、投資家にはとても笑えるジョークではなかったようで、株価は大暴落。



あかんでしょ、そのツイート(\*\_\*; ね！ね！ほんとにネオテニーでしょ(笑)

でも、彼が掲げる壮大な目標もネオテニーだからこそなせる業でしょう。「大人になるということはあきらめることを知ること」でもあるので、、迷惑をかけない程度に僕もネオテニーでありたいと思います。

## 「運転者」-未来を変える過去からの使者-



久しぶりに、僕の好きな喜多川泰さんの新刊の紹介です。いつも変わらない喜多川ワールド。主人公はやり手ではない保険のセールスマン。なかなか保険の仕事内容、インセンティブなど、リアルに書かれていました。保険のセールスは向き不向きがはっきりしているし、完全インセンティブなので、売れない人にとってはとてもつらい仕事です。この本はすぐ読めて、誰でも自分の人生の「転機」、「運のあるなし」についての考え方を大きく変えてくれるので、是非読んでほしい一冊です。常日頃「私はついていない」という方には特にお勧め。うちのスタッフにはお盆休み前に課題図書として配布し読書を勧めます(読まずにメルカリで売るのはやめてね笑)。感想文は不要です。読んでくれたかどうかは、休み明けの毎日の笑顔が増量になっているかどうかで分かるはず(笑)。では少しだけあらすじを。



主人公の保険セールスマンは不思議なタクシーに乗ることになります。その日は不登校の娘の学校に担任から呼び出しを受けて奥さんだけ面談にいらしていたのですが、何故かそのタクシーはその学校に向かって走ります。学校の前で降ろされ、



運転手からは「担任の先生と話をしてください。そうすればあなたの人生は好転します」と言われその通りにしますが、何も起きません。また違う日。同じタクシーに出会い、今度もそのタクシー運転手の勧める場所で降ろされます。そして「あの店に入ってください。そうすればあなた人生は好転します」と告げられ、今度も言われた通りにしますが、何も起きません。人生の転機になると言われたチャンスに何も起きない。2回とも共通していたことは、営業成績もあがらず、イライラしていて、暗いさえない顔をしていたこと。ネタバレになるのでこれ以上は書きませんが、簡単に言うと



「笑う門には福来る」また、ついてないことが続いている時でもそれが本当についてないかどうかというのは分からないものです。病気で退所となる角田君。実は彼、2ヵ月前にはスピード違反で免許もなくなっていたのです(今は喪が明けて運転フリーです)。でもその彼と話したのが、「時々違反で検挙されたり、免許になると、初心に戻り、運転が慎重になる。免許になっていなければ大きな事故を起こしていたかも知れない」と実はあと1点で免許になる僕が考えることと同じ内容だったのです。



(名倉、文館横の踏切の一旦停止で首の皮一枚状態になっております 笑)。結論「ついてる」「ついてない」って簡単に決めずに毎日笑顔でがんばろう！